

付録2 用語説明

	用語	説明
あ行	e G F R	推算糸球体濾過量。身体の中の老廃物を尿へ排泄する能力を表す値で、血清クレアチニン値を用いて計算する。数値が低いほど腎臓の機能が低下していることを表す。
	H D L コレステロール	善玉コレステロールともいい、血管の内側に付着した悪玉コレステロールをはがして肝臓に運び、排泄・処理するため、動脈硬化を予防する効果がある。基準値は 40 mg/dl 以上
	L D L コレステロール	悪玉コレステロールともいい、量が多くなると血管の内側に付着してたまり、動脈硬化を進行させる。さらに血管をふさいで血流を遮断し、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こす。
か行	国保データベース (K D B) システム	国保連合会が保険者の委託を受けて行う各種制度の審査支払業務及び保険者事務共同電算業務を通じて管理する「特定健診・特定保健指導」、「医療」、「介護保険」等に係る情報を利活用し、統計情報等を保険者向けに情報提供することで、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的として構築されたシステム
	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間
	健康格差	地域や社会経済状況の違いによる集団における健康状態の差
さ行	C O P D	有毒な粒子やガス(主にタバコ)を吸入することにより、肺に炎症が起こった結果、肺機能が低下、呼吸困難を引き起こす進行性の病気。日本人男性の死因の第8位(2014 人口動態統計)
	重症化予防	高血圧、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病が進行することにより、合併症(虚血性心疾患、糖尿病性腎症等)を引き起こすことを予防すること。
	ジェネリック医薬品	先発医薬品(これまで使われてきた新薬)の特許が切れた後に医薬品メーカーが製造・販売する薬。先発医薬品と同じ有効成分を同量含んでおり、同等の効能や効果があると厚生労働省から認められた医薬品で、先発医薬品に比べて、薬の値段が3割～5割程度安い。
た行	中性脂肪	主にエネルギーとして利用され、余りは脂肪として体内に蓄積される。数値が高いと、動脈硬化の発症・進行を促進する。
	データヘルス計画(保健事業実施計画)	健康・医療情報を活用してP D C Aサイクルに沿った効率的かつ効果的な保健事業の実施を図るための保健事業の実施計画
	特定健康診査	メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した健診
	特定保健指導	特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる人に対して、生活習慣を見直すサポートを行う。 積極的支援: 専門職による継続的できめ細やかな支援が必要な人を対象に3か月以上継続的に支援する。 動機づけ支援: 生活習慣を変えるにあたって、意思決定の支援が必要な人を

		対象に、原則1回の支援を行う。
は行	P D C Aサイクル	事業を継続的に改善するために、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)の流れで行う、事業運営の方法
	B M I	身長と体重による体型の評価を示す値。体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で計算。基準値は18.5～24.9。25.0以上は肥満
	標準化死亡比	年齢構成の違いの影響を除いて死亡率を全国と比較したもので、国の基準値(100)より大きいと、その地域の死亡状況が全国より悪いことを意味する。
	平均寿命	0歳児の平均余命のことで、全ての年齢の死亡状況を集約したものとなり、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。
	腹囲	特定健診で、内臓脂肪量を判定するために測定を行う。男性85cm、女性90cm以下が基準
	H b A 1 c	過去1～2か月の平均的な血糖の状況を調べることができる糖尿病の検査。5.6%未満が基準値
	ポピュレーションアプローチ(population approach)	健康障害を起こす危険因子を持つ集団のうち、より高い危険度を有する人に対して、その危険を削減することによって予防する方法を高リスクアプローチ(High risk approach)と呼ぶことに対して、集団全体で危険因子を下げる方法を集団アプローチ(population approach)と呼ぶ。
	保健指導支援(あなみ)ツール	特定健診データを利用して、特定健康診査結果の分析、保健指導対象者の名簿作成など保健指導のための集計・分析ツール
ま行	メタボリックシンドローム	肝臓や腸などの内臓の周りに脂肪がたまり過ぎた状態(内臓脂肪型肥満)に加え、高血糖、高血圧、脂質異常のうち2つ以上が加わった状態をいう。
ら行	レセプト(診療報酬請求明細書)	病院や診療所が、医療費の保険者負担分の支払いを、医療保険者に請求する明細書